

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	演劇	種目	ミュージカル
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※	複数の企画を実施可能		

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	ゆうげんがいしやおべらしあたーこんにやくざ		
	制作団体名	有限会社オペラシアターこんにやく座		
	代表者職・氏名	代表取締役 萩 京子		団体ウェブサイトURL
				https://www.konnyakuza.com/
	制作団体所在地	〒 214-0021	最寄駅(バス停)	JR南武線「宿河原」駅
		神奈川県川崎市多摩区宿河原7-14-1		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな	おべらしあたーこんにやくざ		
	公演団体名	オペラシアターこんにやく座		
	代表者職・氏名	代表取締役 萩 京子		団体ウェブサイトURL
				https://www.konnyakuza.com/
	公演団体所在地	〒 214-0021	最寄駅(バス停)	JR南武線「宿河原」駅
		神奈川県川崎市多摩区宿河原7-14-1		
	制作団体 設立年月	平成10年6月 法人設立 (昭和46年4月 団体創立)		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
		代表取締役 萩京子 取締役 大石哲史	音楽監督・座付作曲家/萩京子、歌役者39名、制作8名、事務3名。加入条件:団体の活動に全面的に参加できること。歌役者はオーディションを、制作や事務は面接を行なう。	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	土居 麦
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	土居 麦
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
		<a href="mailto:doi@konnyakuza.com">doi@konnyakuza.com</a>		09017577731

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	<p>1966年、東京芸術大学に発足した「こんにやく体操クラブ」を母体として、1971年、オペラ小劇場こんにやく座創立。日本においてオペラを普及させるために欠くことの出来ない条件として、日本語の明瞭な歌唱表現を追求しながら、小・中・高校生を主な対象とした全国巡回公演を開始。1985年4月にオペラシアターこんにやく座と改名。1988年6月、有限会社オペラシアターこんにやく座設立。創立以来、林光(故人)、萩京子作曲のオリジナルオペラを数多く創作、上演している。活動は国内に留まらず、過去7ツアー延べ19カ国の海外公演も行なっている。</p> <p>1979年 ウィンナーワールドオペラ賞(のちのジローオペラ賞)  1989年 ジローオペラ賞特別賞、文化庁芸術祭賞、音楽之友社賞  1997年 山本安英の会記念基金賞、三菱信託音楽賞  2000年 『ロはロボットのロ』の成果により、東京都教育委員会優秀賞、(社)日本演劇協会賞、(財)都民演劇賞の3賞受賞  2002年 イーハトーブ賞  2014年 小泉文夫音楽賞  2021年 三菱UFJ信託音楽賞</p> <p>1998年より継続して文化庁の現・文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)に採択される。また本学校巡回公演事業に2003年より継続し採択されている。</p>
	学校等における公演実績	<p>1971年創立以来50年以上継続して、小学校中学校、高等学校などの学校公演を実施している。</p> <p>ここ10年(2015年度から2024年度まで)における、本巡回公演事業をのぞく学校公演実績は、  ◆オペラ『森は生きている』 全74ステージ(観客数36,134名)  ◆オペラ『ロはロボットのロ』 全51ステージ(同 27,413名)  ◆オペラ『ルドルフとイッパイアッテナ』 全51ステージ(同 19,467名)  ◆オペラ『タンゲーまほうをかけられた舌ー』 全127ステージ(同 35,443名)  ◆オペラ『ピノッキオ』 全62ステージ(同 24,834名)  ◆オペラ『銀のロバ』 全124ステージ(同 43,859名)  ◆オペラ『ネズミの涙』 全121ステージ(同 74,195名)  ◆オペラ『さよなら、ドン・キホーテ!』 全33ステージ(同 24,425名)  など。他の演目も含め、全730ステージ、319,749名の児童生徒が鑑賞している。</p>
	特別支援学校等における公演実績	<p>1984年～2025年までに計32ステージ、約4300名の児童生徒が鑑賞している。  作品は『森は生きている』、『ロはロボットのロ』、『ピノッキオ』など。  その他コンサート企画などの依頼を受け、実施している。</p> <p>ここ10年の実績では、いずれも本学校巡回公演事業にて下記学校を担当。  ◆オペラ『森は生きている』  2017年(平成29年) 北海道札幌伏見支援学校(北海道)  2018年(平成30年) 石見養護学校(島根県)、浜田養護学校(同左)  ◆オペラ『ロはロボットのロ』  2018年(平成30年) 下呂特別支援学校(岐阜県)、恵那特別支援学校(同左)  2025年(令和7年) 北海道拓北養護学校(北海道)、北海道手稲養護学校(同左)</p>

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	<a href="https://www.youtube.com/watch?v=_p88lFgxE4w">https://www.youtube.com/watch?v=_p88lFgxE4w</a>	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	なし
		PW:	なし

別添	なし
----	----

【公演団体名 オペラシアターこんにゃく座 】

本公演・ワークショップの内容	対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
		小学生(高学年)	○	中学生	-
	企画名	オペラ『ロはロボットのロ』			
	企画のねらい	「こどもたちと、こどもだったすべてのおとなたちに贈るSFファンタジーオペラ」をキャッチコピーとした本作は、冒険や出会いを通じて、主人公のロボットに血の通った感情が芽生えてゆく成長の物語です。心優しく、大切に思う人のために一生懸命なテトの姿に、子どもたちは自身を重ね、他人を思いやることの大切さや困難に立ち向かう勇気への気づきがあると期待します。昨今ますますAI(人工知能)の発達を身近に感じる機会が多くなってきました。将来、関わりが密になっていくであろう人間とAI(ロボット)との共生に私たちはどのように向き合っていくのか、ひいては人間同士が自己と他者との違いを認め、友情や愛情を育む豊かな関係性の発見と理解を、ワークショップや本公演を通じ、子どもたちに促していく所存です。			
	演目概要・演目選択理由	オペラ『ロはロボットのロ』は1999年初演。萩京子作曲によるオペラシアターこんにゃく座代表演目。初演以来、小学校公演や子ども・おやこ劇場公演を中心に展開。さらに言葉の壁を越えて国際交流基金主催ツアー(インドネシア・タイ・インド/2001年)、日韓友情年事業(韓国/2005年)で海外公演も実施。平成12年東京都優秀児童演劇選定において、東京都教育委員会優秀賞、(社)日本演劇協会賞、(財)都民演劇賞の3賞を受賞。 物語は、歌い手8人が計30以上の役を演じながら、多層な場面構成により展開していきます。鄭義信の「ことば」と萩京子の「音楽」と魅力的な登場人物たちによって、笑って、泣いて、どきどきしながら、自分にとって一番大切なものを探す、旅のお話でもあります。困難に出会っても、負けずにまっすぐと前を向く主人公の視線に、(舞台にも登場する)できたてのパンを食べたときのように、心が温かなもので満たされてゆくオペラです。 ～ものがたり～ ウェストランドのパン工場で働くパン製造ロボット‘テト’はパン作りが得意で大好き。ところがある日、作れるパンの数が減ってきてしまいました。テトは体を直してもらうため、自分を作ったドリトル博士の住むイーストランドを目指して旅立ちました。七日七晩歩きイーストランドにたどり着いたテトは、そこで‘ココ’という女の子と出会います。ロボットを目の敵にする魔女ノーマが支配するイーストランドで、テトはパンを作ることでココの窮地を救います。テトのパンは人々を幸せにしていますが、このパンのおいしさの虜になったノーマの娘‘ジーン’の策略よって、テトとココはふたたび窮地に立たされます・・・。			
	児童・生徒の参加または体験の形態	本公演の際に一緒に歌を歌ってもらいます。観劇対象の児童全員を対象とします。 1／劇中歌「テトのパンはあ」を歌う場面で、出演者と一緒に歌います。 2／劇中歌「たったひとつとくいなこと」を歌う場面では、リズムに合わせて手拍子をしてもらいます。 3／アンコール曲として「テトのパンはあ」をもう一度最後に一緒に合唱します。 学校の希望により、仕込やバラシの様子の見学、また給食時間を一緒に過ごす工夫をします。			
	児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	450名(一緒に合唱します)	
			鑑賞人数目安	450名	
	本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	オペラ『ロはロボットのロ』 作曲:萩京子、台本・演出:鄭義信、振付:伊藤多恵  【プログラム構成】 1. 挨拶 2. オペラ『ロはロボットのロ』第1幕(前半) (休憩10分) 3. オペラ『ロはロボットのロ』第2幕(後半) 4. 出演者と一緒に歌おう！(ワークショップで練習した歌を合唱)  ※上記のほか意見交換の場や仕込見学など観劇以外の交流は、学校からのご要望、ご相談に可能なかぎり対応します。			
		公演時間	110	分	
	出演者	泉篤史、入江茉奈、佐藤敏之、岡原真弓、沖まどか、武田茂、中村響、小田藍乃(以上オペラシアターこんにゃく座歌役者)、湯田亜希(ピアニスト・フリー)			
	演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	泉篤史(テト役)・・・オペラシアターこんにゃく座歌役者(2015年より)。新潟大学卒。『ロはロボットのロ』シオン役、『森は生きている』四月の精・カラス役、『リア王』エドガー役など数多くのオペラに出演。 入江茉奈(ココ役)・・・オペラシアターこんにゃく座歌役者(2020年より)。エリザベト音楽大学大学院修了。『森は生きている』五月の精・ウサギ役、『神々の国の首都』よし子役、『リア王』コーディリア役など出演多数。 湯田亜希(ピアニスト)・・・フリーのピアニスト。東京音楽大学器楽科卒業。東京コンセルヴァトワール尚美ディプロマコース修了。オペラシアターこんにゃく座の多数のオペラに関わるほか、音楽とパフォーマンスの融合をめざすアンサンブル・ポアール、篠笛とピアノによるユニットSynopiaでも活動。			
	本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者:	9	名	運搬  積載量: 4 t 車 長: 8.9 m 台 数: 1 台
		スタッフ:	7	名	
		合 計:	16	名	

<b>本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュー ル)の目安</b>	前日仕込		無	前日仕込所要時間		時間程度	
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出
	8時	8時～12時		13時10分～15時	10分	15時～16時30分	16時30分
	※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。						
<b>本公演 実施可能日数 目安</b>  ※実施可能時期につ いては、採択決定後 に再度確認します(大 幅な変更は認められ ません)。	6月		7月		8月		9月
	0日		0日		0日		0日
	10月		11月		12月		1月
	0日		1日		14日		0日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		15日
<b>鑑賞時の児童生徒の座り方 イメージ図</b>	<p>上演エリアは体育館フロアとなります。横方向に設置することを基本とします。</p> <p>※並び方の参考にして下さい。 横列は20人～30人ほど、縦列は8列～12列ほどで座っていただくことが多いですが、児童数に応じて柔軟にお考え下さい。</p> <p>基本的にフロア(床)に直接座ってもらいますが、後方2列は椅子席にし、見やすさの確保をします。</p>						
	<p>※会場条件について最低限必要な条件がある場合には、様式No.4内「会場簡</p>						
<b>著作権、上演権等 の許諾状況</b>	各種上演権、使用权等の許諾手続の要否		該当あり		該当コンテンツ名		台本著作権、音楽著作権
	該当事項がある場合	権利者名	台本：鄭義信 作曲：萩京子		許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済	

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名

オペラシアターこんにゃく座

】

## ワークショップの内容

## ワークショップのねらい

「歌」は、生活の中やあるいは音楽の授業など、子どもから大人まで自然と耳にしたり、歌ったりと、誰もが気軽に触れ、また表現できる芸術のひとつです。いっぽう、オペラやミュージカルでは「歌」が重要な舞台の要素となっています。舞台上上がる、演じるという行為に初めて取り組む際は、少しドキドキしてしまうものですが、その取り組みをワークショップ(歌の練習)を事前に行なうことによって、子どもたちが登場人物の一人になりきって、本公演の舞台鑑賞のイメージを膨らませる効果を期待します。

歌われる「言葉」は、具体的なイメージを持っているか持っていないかによって、歌の表現に大きな違いをもたらします。舞台鑑賞の事前と事後とで、同じ歌でも表現の違いに子どもたちが気づききっかけを与え、歌唱のみならず、自己表現の多様性にまでその探求が及ぶことを期待しています。

## 児童・生徒の参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

450名まで

## ワークショップ実施形態及び内容

標準:90分

事前に劇中歌の楽譜と音源を渡し、音楽の授業での練習、また校内放送などで曲に親しんでいただきます。当日は次のプログラム進行となります。(途中10分休憩あり)

①劇団紹介を兼ねて歌の披露・・・こんにゃく座は歌う劇団です。オペラの上演とともにステージを重ねているコンサートなどで歌う数あるレパートリー“ソング”から1曲歌います。音と言葉との結びつきが自然と耳に馴染む曲を選曲しています。

②劇団名の由来となっている「こんにゃく体操」の体験・・・動きが独特で、すぐに真似をしてみたくなる「こんにゃく体操」を導入に行なうことで、初対面の講師と子どもたちとの距離を一気に縮めるねらいを持ちます。無駄な力を抜きながらまっすぐ立つことを意識した体操から、こんにゃく座が培ってきた日本語を歌う方法を子どもたちに分かりやすく伝え、各自が本来持っている声を引き出す準備運動を行ないます。

③「オペラ」とはどういうものか、“演劇”と“オペラやミュージカル”の違いは何か、実演をまじえて解説します・・・短いひとつのシーンを、演劇で台詞だけで演じる場合と、オペラやミュージカルで台詞に歌がある場合の両パターン実演し、その違いを解説します。初めて目の当たりにする子も多いであろう“オペラ”への理解を促し、またこの後の時間で実践する、「歌いながら演じる」ことのイメージを膨らませてもらいます。

(休憩10分)

④オペラのテーマソング「テトのパンはあ」を一緒に歌ってみましょう・・・言葉遊びの要素も含んだ親しみやすい歌です。「あ」という音にいろいろな表現方法があることを伝えながら、メロディーと歌詞を覚えていきます。児童生徒が本公演に参加する意識をしっかりと持ち期待を高めてもらえるように、解説やシーンのイメージを添えながら実践していきます。劇中歌「テトのパンはあ」が歌われるのは、主人公テトが、ココとその父であるパン屋のエドのピンチを救うために得意なパン作りを披露する場面です。ロボットと人間たちのあいだに信頼が生まれ、明日へと向かう「希望」を歌で表現しています。歌ってうきうきしてくる気持ちにうまく振りをつけられるよう指導していきます。

⑤質問コーナー・・・ワークショップを体験して感じたことや疑問など、発表、そして講師との言葉の交流の時間を設けます。疑問を抱いたことをそのままにせず、また繰り返しの確認を言葉で行なうことで、理解の定着を計ります。また、この質問の時間の中で、例えばどのようなロボットがいたら楽しいか、そのようなロボットと共存する社会とはどのようなものなのか、子どもたちの視点で語ってもらい、将来への希望や夢を育む創造を広げる時間にもつなげていきたいと思います。

## その他ワークショップに関する特記事項等

特別支援学校でのワークショップは基本的に上記内容と変更なく実施可能ですが、事前打ち合わせで学校との相談の上、子どもたちの習熟レベルに合わせて対処し、柔軟に進め方を決めていきたいと思っています。

根本的な考え方として、特別支援学校(学級)に在籍する子どもたちにも普通学級の子どもたちと同様に芸術に触れる機会を提供できるように工夫していきます。



一般区分・特別エリア区分共通  
No.4(共通)

別添	なし
----	----

【公演団体名                      オペラシアターこんにゃく座                      】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。  
・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。  
・搬入車両が構内に入らず、搬入のための追加費用が生じてしまった。  
・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。  
上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。  
任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。  
詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。  
なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。						
会場の設置階の制限		2F以上応相談		主幹引き込み電源容量		100 A以上	
舞台設置面積	間口	14.4 m	奥行	10.8 m			
	高さ	5.4 m					
舞台設置場所	フロア対応	可		学校のステージでの対応		不可	
搬入間口の広さ	幅	1.8 m	高さ	2 m			
遮光の要否	7割程度必要		緞帳の要否		必ず必要		
ピアノの使用について	必ず使用する		ピアノを使用する場合の設置位置の指定		あり		
			ピアノを使用しない場合の移動の要否				
搬入車両(トラック等)の横づけ	応相談		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離		20 m以内		
搬入車両の種類	中型トラック		台数	1 台			
搬入車両の大きさ	車幅	2.3 m	車長	8.9 m			
備考	基本的な必要条件を記載していますが、一部条件を満たしていない場合(電源容量不足や搬入間口の広さ)でも対応可能な場合があります。実施校の状況に応じ対応可能です。						

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報

(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
会場図面の提出要否	要	
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)	図面の提出は体育館の形状や構造が特殊な場合のみで構いません	

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ	鑑賞対象となる児童・生徒全員	30～45分程度	音楽の授業時間、または校内放送のタイミングなど	歌の練習。あるいは校内放送で音源を流し、歌が子供たちの耳に馴染むよう準備いただきたい。	音源CD、楽譜や歌詞カードを劇団で用意いたします。
	ワークショップ					
	本公演	鑑賞対象となる児童・生徒全員	30～45分程度	音楽の授業時間、または校内放送のタイミングなど	歌の練習。あるいは校内放送で音源を流し、歌が子供たちの耳に馴染むよう準備いただきたい。	音源CD、楽譜や歌詞カードを劇団で用意いたします。
	本公演					

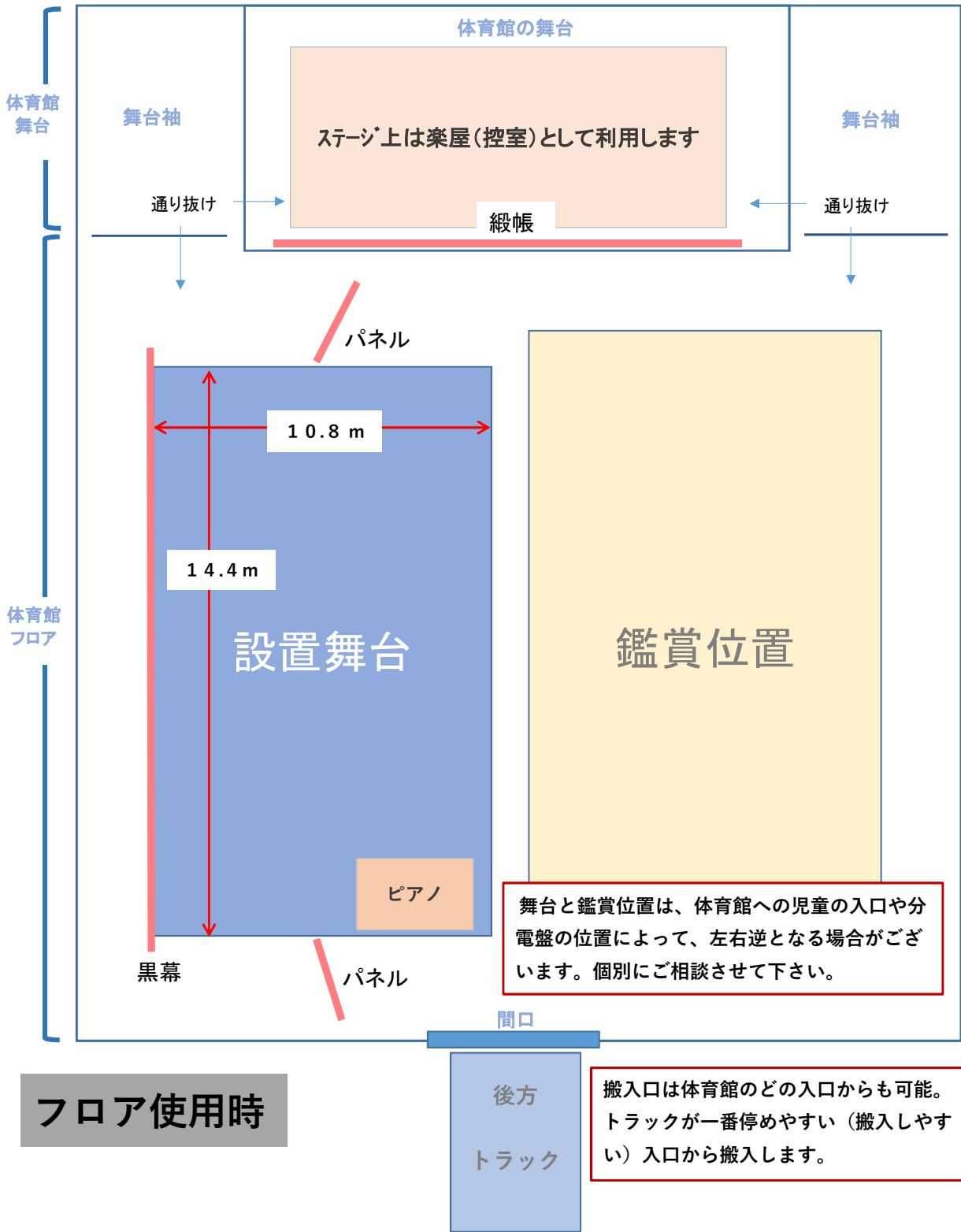
個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1	体育館の電源容量(主幹)が100A(アンペア)に満たない場合も対応可能です。その場合、電源容量が何Aか教えて下さい。	
	2		
	3		

(任意)

会場条件について最低限必由奈条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。

会場簡易図面





別添

なし

【公演団体名 オペラシアターこんにゃく座】

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

## 【本事業を通じて実現したいこと】

こんにゃく座は2003年から本事業に携わっていますが、ワークショップを経て本公演に臨むステップが、鑑賞の機会をより有意義なものへと飛躍させ、学校教育の一環としての性格を高めていることを確信しています。教師と児童生徒が普段過ごす学校での授業の時間を、第三者であるワークショップ講師や出演者が共有することで、新たな関係性が生まれ、多面的なコミュニケーションの機会を提供することも一つの目的です。

そして何より、児童生徒がプロの実演家と舞台で共演する目的を持ち、その過程に立ち会うことで、子どもたちの緊張や興奮、喜びといった表情一つ一つの変化を彼らの成長の発露と感じ、本公演での成果につなげていくことを本事業の使命と心がけています。

## 【上記の実現に向けて、実施の工夫】

子どもたちが心待ちにする本公演で、普段使い慣れた体育館を一日だけのオペラハウスへと変えます。子どもたちに鑑賞の機会が日常生活のすぐ近くにあるという意識を持つてもらおうと同時に、その体育館が特別な空間に生まれ変わったことに対する驚きと発見が、子どもたちの創意工夫の精神を養い、舞台芸術への関心を高めてもらうことにつながるでしょう。

全校の児童生徒に参加をいただきたいワークショップ、そして、その過程を踏まえた本公演の体験を通じ、子どもたちが将来、自らの意思で劇場へと足を運び、鑑賞を楽しむ観客となることを願っています。新たな観客の育みこそ日本の豊かな社会への発展となることに希望を寄せ、その第一歩となる子どもたちとの時間の共有に、積極的に取り組んでまいります。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

## 【学校との連絡調整について】

実施校には早い段階において、作品内容、実施までのスケジュール、どのような準備をしていただくかをまとめた資料を送付、さらに電話での説明を行なってまいります。その中で、ご担当の先生のみならず、校長・教頭先生にも本事業の趣旨をご理解いただき、単なる鑑賞機会に留めないようご協力いただけるように計っていきます。

専任の担当者を置いておりますので、ご質問やご相談には電話やメールなどで随時対応いたします。

## 【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

実施校には早い段階において、作品内容、実施までのスケジュール、どのような準備をしていただくかをまとめた資料を送付、さらに電話での説明を行なってまいります。その中で、ご担当の先生のみならず、校長・教頭先生にも本事業の趣旨をご理解いただき、単なる鑑賞機会に留めないようご協力いただけるように計っていきます。

専任の担当者を置いておりますので、ご質問やご相談には電話やメールなどで随時対応いたします。

## 【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

本体験を経て、観劇の面白さや音楽や演劇への興味を深める子どもたちが多かったなら、先生方には本事業への応募の機会を重ね、一度きりの体験でなく、他ジャンルの文化芸術にも子どもたちが触れるきっかけを創っていただくことを願います。文化体験を重ねることで、子どもたちの興味は自ずと醸成されると信じています。

その興味を深める先として、例えば当劇団のホームページは子どもたちやそのご家族のアクセスも想定し、親しみやすく分かりやすい情報発信を心がけています。また学校公演だけでなく、全国各地でのホール公演（一般公演）も展開しているため、もう一度こんにゃく座のオペラを見てみよう、見てみたいという興味への答えを用意しています。学校での体験を経て、卒業後も鑑賞文化が生活の中の当たり前の楽しみになることを強く願っています。